

本願力

～横浜別院だより～

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一―十一―八

FAXTEL
(045) 841-1343
(045) 841-1342
(http://www.yokohama-ootani.com)



動き出す神奈川教化センター

VOL.9

輪番 坂田 智亮

しとしとと降り続く梅雨もあれば一度にドカッとやってくる梅雨もある。玄海原発四号機が再稼働はじめて二日後、関西では震度六の地震が発生した。これを何らかの警鐘と思うのは無理なのだろうか。地震大国、起こるたびに原発への懸念が広がる。被害にあわれた方には心よりお悔やみ申しあげます。

人間の知恵は、安心安全な社会を目指してきたはずだが自然の道理には逆らえない。しかも人間社会は進歩発展を遂げていくほどに複雑になって重層的虚構を積み上げ、断絶と分断は既に始まり、合理的、利便性は解決の糸口と道筋の手がかりさえ見えにくく、不明瞭な不可解な問題を生み出し続けていく。国内外の政治・経済の動向もしかりである。とりわけ共生感を失った幼児虐待は許されるものでは

ない。

先日、袴田事件の再審開始決定の取り消しが東京高裁であった。事件から半世紀たつてこの決定である。また先般、布川・袴田・狭山・足利事件いわゆる冤罪事件を取り上げた映画「獄友」監督金聖雄を鑑賞した。刑務所にて暮らした五人の牢獄年数は合計一五五年、未確定事件もあるにせよ、国家権力の傘の下、彼らは奪われた尊い時間の中で何を失い何を得たのだろうか。「不運だったけど、不幸ではなかった。我が人生に悔いなし」この言葉の背景に通底するものは一体何か、何がそう言わせるのか。獄中での悲しみの現実を通して深く人間を凝視し、人間の本质を回復していく中に見出された金言のように思えてならない。改めて司法の闇・人間の尊厳・命の重さを考えさせられ、あらゆる人間模様の中に間違いなく真実なるものを求めようとする願いが存在し連動し、共鳴共感を生み出すことがあることを頷かされた。

教化センター事業「元気なお寺づくり講座」を修了して、別院の寺業計画、将来展望が出来あがりその実行が俟たれている。その根幹をなしているのは「ご



【紫陽花、アジサイ、安知佐井、八仙花、止毛久佐、七変化】

作 早乙女 須洋

私は、仏教は「こころの薬」だと思っている。万人に効く「こころの薬」だと思いたい。紫陽花も同様で状況により色が美しく変化し心をなごませる。

また一方では使い勝手により毒

性にもなるし薬効にもなる。そうです「七変化」なのです。ちなみに横浜別院がある横浜市港南区の花は紫陽花です。

横浜組智廣寺門徒 早乙女須洋

縁づくり」である。ご縁とは本願念仏に生きたる人を生み出す「縁」である。念仏とは何も口に出して称えるだけではない。世界に満ち溢れている念仏の声に気づきその声を繋ぐことである。その声を阻害し聞こえなくしているのは、私自身である。別院はあらゆる人と念仏の声を確かめ合う場である。別院でのグリーンフケアの歩みは、まさしく「真宗グリーンフケア」でなければならぬ。人間存在の根底には等しく如来様から深く願われていいるいのちが届けられている。

「攝為自體 共同安危」どのような人であらうとその現実と運命を共にする。そして、安らかなときも、危機的なときも共なる世界を求めずにおれない、そういう身を発見したい。しかも、自然と念仏が満ち溢れてくる、そんな場を別院に夢見ながら過ごさせて頂いている。

立つ！いのちの大地に
聞く！いのちの叫びを

元気なお寺づくり講座 第四回・第五回
講師 竹原 了珠 師

全五回の元気なお寺づくり講座が五月十七日に終了した。第四回（三月十三日）は、竹原講師から寺業計画書を作成する上での注意点など具体例をあげながら指導いただき、寺業計画を磨き上げる作業を班ごとに進めた。これまでの講座の中で積み重ねてきた内容をまとめる作業であるが、これ

がまた難しく、良い意味で参加者が頭を抱え、真剣にお寺の未来と向き合い、取り組んでいる姿が見られた。

最終回（第五回）は、本堂において班ごとに寺業計画書の発表を行なった。僧侶と門徒がお寺の将来について、長い時間をかけて検討した集大成が寺業計画書である。六つの寺院が八分間の発表時間と十二分間の質疑時間をフルに使って、参加者の前で発表を行なった。僧侶が代表して発表する班もあり、僧侶の垣根を越えて、御同朋御同行の実践がそこにあつた。お寺ごとに一つとして同じ環境や状況ではないので、もちろんお寺の未来を描くビジョンも全く異なっている。どの班が発表した後も大きな拍手が巻き起こり、将来に向けての力強い決意が見られた。発表の後、閉会式が行なわれ、禿信敬企画調整局長より、各お寺へ修了証が手交された。講座は終了したが、あくまでこれからの始まりなのである。各お寺が取り組むべき課題を見つけ、実践してこそ講座の意味があるのである。（文責 家本）



→ 寺業計画書発表



グリーンフケアの基礎を学ぶ研修会
レポート 横浜別院列座 佐竹大樹

第二回目の研修会は「セルフケアく自分自身を知る」という講題での研修でしたが、セルフケアについて、浮かんてくるイメージを書き出すワークを行いました。セルフケアという言葉を知り、個々がどういうイメージを抱いているのかを知るワークは、自分の理解や言葉の意味を掘り下げる良いワークだと思いました。このワークでは、大きく分けると、逃避（お酒、趣味、好きなことをするなど）とリラクセス（温泉、睡眠、呼吸、自分を知るなど）に二分されることがわかりました。

尾角光美先生は、セルフケアは「自分自身を大切にすることです。」と説明していました。また、セルフケアの種類には、回復・保つ型と元気づけ型と二種類があり、回復・保つ型は落ちているときにセルフケアで、もっと元気づけ型は楽しいことをしてもっと元気になるセルフケアであると説明がありました。

また尾角先生は、グリーンフケアの現場においても、人の話を聞くことは聞く側にも負担になることがある。自身のセルフケアの方法を学ぶことは、その都度自分自身の状態を知ること、自分をつぶさないため自分を守るために、何をすれば楽になるのかその方法を知っているだけでも自分を大切にできる。色んな人の辛い話を聞くには経験が必要であり、聞く側は相手の話を聞いて辛い気持ちやしんどい気持ちになることがある。そういう気持ち

にならないためにも、自分自身を保つためにセルフケアが大事であると話されていた。また、自分を大事にしている姿を、相手の手本となることが望ましい。等と話された。

研修会を終えて感じたことは、普段頻繁に顔を合わしている人でも、あたり前のことですが知らない一面があり、色んな経験をされて今日があるんだなあと感心いたしました。言葉には出さないけれども、お一人お一人が様々な因縁に依って生きておられる。その因縁を私たちは人生と呼んでいます。私は仏教から「人生に無駄なご縁一つもない。すべてが有難いご縁である」ということを学んできました。一人一人にはそれぞれの人生があり、その一人一人の人生が有難い尊い人生であります。私たちはそのことが分らずに悩み苦しんでいます。今日の研修会では「ジャッジしない」という考え方が紹介されましたが、私たちはやってきたご縁をジャッジして生きています。ジャッジする在り方がありのままに人生を喜ぶことを妨げている原因になっています。

「ままに」「ジャッジしない」という考え方は、仏教に通じるものがあると感じます。ジャッジしないそのままの人生が有難い、尊い人生であります。そのことに目覚めて欲しい、気づいて欲しいという願いが本願であり、佛の教えです。誰にも相談できずに悩みや苦しみを抱えて生きざるを得ない人たちのために、「人生に無駄な出来事（ご縁）は一つも無かった。これが私の人生でした。」と人生（ご縁）を丸ごと喜ぶ人が生み出されていくことを切に念じます。

稲田の草庵跡・西念寺



今年の別院
同朋の会研修
の旅は、親鸞
聖人御旧跡の
稲田の草庵跡・
西念寺、板敷
山の弁円ゆか
りの大覚寺に
参拝しました。
時を越えて
感慨深く、宗
祖のご苦勞を
伝えておりま
す。



見返り橋



山伏弁円ゆかりの大覚寺

別院団体参拝の皆様
ありがとうございます

五月三十日

福井教区教誨師会ご一行様

六月十六日

東京五組明福寺ご一行様

横浜組門徒会長森田勉さんご勇退

横浜組門徒会長を三期お勤めくださった森田勉さん、この度、任期満了により退任されました。横浜別院の御遠忌・神奈川教化センター設立と言う大事な時に寸暇を惜しんで大切なご助言ご支援を頂きましたこと深く御礼申し上げます。これまで同様に別院・教化センターに思いを寄せて、聞法精進くださいますよう念じます。



《神奈川四ヶ組寺院行事予定表》

【西來寺聞法会】

『浄土真宗はじめの一步』

【日時】八月四日(土)

午後一時半～午後五時

【講師】佐々木正師

(草庵舎主辛・萬福寺前住職)

【会場】西來寺・本堂

電話 〇四六・八二二・一〇二〇

FAX 〇四六・八二二・五三九〇

住所・横須賀市不入斗町三・三八

【参加費】千円

【事前申し込み】

七月三十一日までに電話、FAXもしくはハガキにて申し込みください。

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 — 2018年7月～8月

～どなたもご自由にお参りください～

定例法話 午後1時30分より

7月9日(月)川崎組 徳泉寺 岩崎 実 師
 7月28日(土)別院 列 座 家本 久和 師
 8月9日(木)湘南組 聞称寺 水野 義隆 師
 8月28日(火)別院 輪 番 坂田 智亮 師

横浜別院同朋の会

8月18日(土) 午後1時30分より

参加者の皆様とテーマを決めて、座談を中心に行います。お気軽にご参加下さい。

※7月18日の同朋の会は休みです。

孟蘭盆会法要 午後1時30分より

7月13日(金)、14日(土)

【法話】松林 了 師

(岡崎教区第17組 西岸寺住職)

真宗門徒にとって「お盆」とは、亡き人から案じられている我が身であったことに目覚め、あらためて、人間として賜ったいのちや生きる意味を問う“聞法の機縁、”といたしております。皆様と一緒に、お盆を仏法聴聞の機会として、亡き人々からの尊い呼びかけに応えていきたいと存じます。どうぞご参詣ください。

《暁天講座のご案内》

【日時】8月25日(土)

午前6時30分～8時15分

【講師】マイケルコンウェイ 師

(大谷大学文学部専任講師)

【講題】「信心の歩み—「信楽」の内容の二側面—」

【参加費】無料 ※事前申し込みは不要です。

.....

【日時】8月26日(日)

午前6時30分～8時15分

【講師】名倉 幹 師 (北米開教区開教使)

【講題】「二つの気づき 悪人の自覚と救い」

【参加費】無料 ※事前申し込みは不要です。

両日とも、講座終了後に軽食(パン・豆乳)をお配りします。ぜひ参加ください。

寺 族 研 修 会

9月10日(月)

午後1時30分～4時(受付1時より)

【講師】井出悦郎 氏 (未来の住職塾講師)

【講題】「これからのお寺づくりを考える」

【会場】本願寺横浜別院

(横浜市港南区日野1-10-8)

※駐車場16台あります。

【参加費】1,000円

【携行品】念珠、筆記用具

【聴講対象】寺院、門徒、一般希望者

※参加申込は不要です。直接会場にお越し下さい。

編集後記

「始まりがあれば、いつかは終わる。」当たり前のことなんです。が、今月号では色々な終わりがありました。まず、元気なお寺づくり講座(全五回)が終了しました。最初から最後まで熱のこもった講座でした。今後は、寺院それぞれの歩みが楽しみです。

次に、グリーンフケアの基礎を学ぶ研修会(全三回)が終了しました。次号では、第三回目の研修会の様子をお伝えできればと思います。

横浜組門徒会長であった森田勉さんが勇退されました。様々な場面で、力強く引っ張っていたいただきました。

六月十一日、東京教区主催の教学館第七期生を修了しました。今後は、西田眞因先生から三年間学んだことを少しずつですが、別院へ還元させていただきます。

いよいよ、あの暑い季節が始まります。(家本)